

## 直播エダマメの作期拡大技術

エダマメ栽培について、直播栽培による省力化と段播き(間隔をあけて播種)による作期拡大を図るため、品種と播種期を組み合わせ、4月下旬から5月上旬は耕うん同時畝立て・播種・マルチ作業機によるマルチ直播、5月中下旬は無被覆直播を行う技術体系を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. マルチ直播では無被覆直播に比べ、播種後10日間の畝表面下5cmの平均地温が約1℃高く、出芽・苗立ちが安定します。
2. 低温期に播種した場合、マルチ直播の莢数、A品重、収穫期の莢乾物重と全乾物重は、無被覆直播よりも有意に大きくなります(図1)。
3. マルチ直播でも株穴より雑草が発生しますが、無被覆直播に比べれば有意に少ないので除草作業は軽減されます。
4. 春作業時期におけるマルチ移植の作業時間が約18時間/10aであるのに対し、マルチ直播は約3時間/10aと省力的になります(表1)。

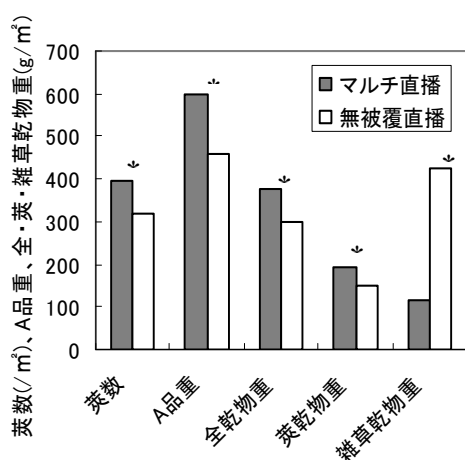


図1 新潟茶豆のマルチ直播栽培と無被覆直播栽培の比較

表1 10a 当たり投下労働時間

	マルチ移植栽培(慣行)	マルチ直播(新技術)	(参考)エダマメ直播	
春作業時期	育苗管理	4	—	—
	石灰散布	0.1	0.1	0.1
	肥料散布	0.1	0.1	0.1
	耕うん	1		
	畦立て			
	マルチ	7.2	3	2
	移植・直播	6		
	初期除草剤散布	—	—	0.5
春作業時期の作業合計	18.4	3.2	2.7	
脱莢、水洗、選別、計量、袋詰等	63	63	63	
管理作業等	23.2	23.2	23.2	
合計	105	89	89	

### ☆ 活用面での留意点

1. 茶豆など4品種について、北陸4県の各アメダス地点における播種日と予想収穫日をホームページに公開しています。<http://narc.naro.affrc.go.jp/inada/edamamex/edamamex.html>
2. 前年秋季に額縁明渠や弾丸暗渠を設けるなど排水対策が必要です。
3. 導入が期待されるのは、収穫時期に一定の労働力を確保できる大規模水田作経営です。
4. 詳細は、中央農研・北陸水田輪作研究チーム(電話 025-526-3235)へお問い合わせ下さい。

(中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男)